

# 令和5年度 学校運営に関する学校評価を受けて

東根市立第三中学校  
校長 竹内 齊

本校教育活動（学校経営の重点項目など）に対する保護者アンケート及び生徒アンケートの結果を受けて、本校学校運営についての自己評価を行いましたのでお知らせいたします。お寄せいただいた御意見を、次年度の教育活動に生かすとともに、本校教育活動のさらなる充実を図ってまいります。ご協力ありがとうございました。

## ◆視点1：学習・授業にかかわること

4 よくあてはまる 3 ややあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない

※保護者・生徒とも無記名での回答です。

数字 = 上段：保護者（%） 下段：生徒（%）

問	質問内容（生徒にも保護者と同じ内容の問いかけをしています。）	4	3	2	1	4と3の割合		
						R5	R4	増減
1	お子さんは、授業に集中して取り組むことができると言っている。	18	40	8	2	85	83	↗
		36	30	3	0	96	94	↗
2	お子さんは、授業中自分の考えを発表したり、互いの意見を交換したりして、自分の考えを深めることができたと言っている。	18	34	13	3	77	77	→
		39	19	10	1	84	86	↘
3	お子さんは、授業がわかりやすく、意欲的に取り組めると言っている。	15	39	12	2	79	73	↗
		38	25	6	0	91	93	↘
4	お子さんは、家庭学習に必要感を感じて取り組み、学校での学習に活かすことができていると思う。	17	29	16	6	68	63	↗
		29	27	13	0	81	81	→

## 【今年度の取り組みや評価について】

### ◇今年度の取り組み

- ・ 電子黒板が導入され、日常的な ICT の活用による授業づくりの実践。
- ・ 生徒の要望に伴い、習熟度別の授業の取り組みの実施(数学など)
- ・ 自ら学ぶ主体性を育成するため、興味・関心を高める教材の吟味と、課題解決の見通しが持てる指導過程の工夫。

### ◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ 授業に集中して取り組んでいる生徒の割合が高く、授業改善の手応えを感じている。
- ・ 学習に意欲的に取り組んでいると捉えている保護者や生徒の割合が高いが、一部の生徒は、授業のわかりにくさを感じているようである。
- ・ 家庭学習の必要感について、保護者の数値がかなり上昇しており、授業と家庭学習とのつながりを視点にした本校の研究の成果が表れている。

## 【今後の方針や具体策について】

- ・ 生徒にとって必要感のある課題設定と、興味・関心を引く教材研究を心掛け、生徒が自分事として学べる授業づくりを推進していきます。
- ・ 指導と評価の一体化を図る授業改善により教師の指導力向上に力を入れていきます。そのために、研修と校内研究の充実を図り「授業を核にした学校づくり・学校経営」を推進していきます。
- ・ お互いの考えを聴き合い、かわり合いながら学ぶプロセスを重視することで、人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていける力を身に付けさせていきます。
- ・ わからないことをわからないと言える雰囲気づくりと、わからないことをわかるように自力解決するプロセスを教師がコーディネートするような授業づくりに心掛けていきます。
- ・ 学習の成果や様子を保護者に広報することで、学校と家庭の連携を図ります。

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R5	R4	増減
5	お子さんは、学校に楽しく登校している。	45	18	4	1	93	87	↗
		46	18	4	1	93	93	→
6	お子さんの学級は、よさが認められ居心地がよく、思いやりのある友だちが多いと思う。	27	31	9	1	85	82	↗
		51	15	2	1	96	94	↗
7	お子さんは、学級の係活動や専門委員会、生徒会活動に積極的に取り組んでいると思う。	38	25	4	1	93	92	↗
		49	16	2	2	94	93	↗
8	お子さんは、部活動や外部での活動、その他の活動に意欲的に取り組んでいると思う。	45	21	1	1	97	88	↗
		51	14	2	2	94	90	↗
9	お子さんは、学校のきまりや服装、時間等をきちんと守り生活していると思う。	36	28	4	0	94	93	↗
		53	16	0	0	100	96	↗

## 【今年度の取り組みや評価について】

## ◇今年度の取り組み

- ・ 生徒会や学校行事は、「生徒が自分たちで企画し、自分たちで運営する」ことを基盤とし、達成感や自己有用感を味わえる指導と支援。
- ・ 定期的な教育相談、自己生活アンケートの実施とその記述内容に対する即時対応を心がけた生徒に寄り添った指導。
- ・ 「部活動方針」の啓発及び方針（国・県・市・本校）に基づく活動の実践と、部活動の地域以降に伴う改革。
- ・ 教職員全員で生徒を見守る温かい生徒指導の構築。

## ◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ ほぼすべての項目が上昇している。アフターコロナに伴った新しい形や制限から解放された学校行事により、心豊かに前向きに学校生活を過ごせている。
- ・ 楽しく学校に登校できていると感じている保護者の割合が大きく上昇していることが、学校として大きな励みになっている。
- ・ コロナ対策として密を回避するために生徒同士の話し合いの場も制限されてきたが、制限が緩和され生徒同士が活発に話し合いを進めたことにより生徒の熱い思いが込められ、より主体的な姿が見受けられる学校行事が多くあった。
- ・ 部活動は、今年度から任意加入制となったが、大きな混乱もなく活動することができた。また、外部のクラブチームに所属する生徒の活躍や、部活動に所属しない生徒においても、部活動の時間帯に本校のラーニングセンター（スイート）で学習するなど、昨年度までにはなかったより良い生徒の姿も見受けられた。
- ・ きまりや時間を守る等の規律面に関しては、昨年度から大きく数値が上昇したが、生徒が安全・安心して生活していくためには、さらに伸ばしていく必要がある。

## 【今後の方針や具体策について】

- ・ 生徒がより主体的で協働的な学校生活を送れるよう、生徒会活動に力を入れ、生徒自らが自分たちの学校をよりよくしていこうとする自治力の育成に努めます。そのため、企画・立案から生徒自らが行えるよう話し合いの時間や活動時間を確保するための教育課程編成の工夫を行います。また、その生徒の取り組みの様子を保護者により多く発信し理解いただくことにも努めます。
- ・ 安全・安心な環境を作るため、教師も一枚岩の指導で当たっていけるよう、気づいたことについての細やかな情報交換や適宜打ち合わせを持つなど、即時対応に心掛けます。
- ・ 決まりについては、時代にマッチしたものであるか、根幹からの見直しも図っていきます。
- ・ 部活動改革により、R7に休日部活動地域移行が全面実施となるため、本校の部活動の統廃合や、それに伴う周知を丁寧に行っていきます。

◆視点3：教育相談・コミュニケーションにかかわること 上段：保護者（％） 下段：生徒（％）

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R5	R4	増減
10	お子さんは、先生方が話をよく聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりしていると言っている。	28	28	7	5	83	78	↗
		37	26	6	0	91	92	↘
11	お子さんは、努力したことやよい点を先生方が認め、正しく評価してくれると言っている。	25	33	6	4	85	82	↗
		43	23	3	0	96	93	↗
12	お子さんは、道徳や学級活動、総合や校長講話で、生き方や将来のことについて考えることができたと言っている。	16	33	16	3	72	77	↘
		40	23	4	2	91	94	↘
13	お子さんは、家庭での来客や地域の方々に対して、自ら進んであいさつができています。	28	36	4	0	94	87	↗
		47	19	3	0	96	92	↗

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 毎月1回の「自己生活アンケート」を通して情報収集に努め、生徒の思いを教職員間で共有し、教育相談を迅速かつ継続的に実施。
- ・ 「いじめ防止基本方針」に基づく指導実践。いじめにつながる言動への組織的対応と家庭との連携を重視（いじめに関する調査の年2回実施）。
- ・ 毎朝の生徒会生活委員会によるあいさつ運動。職員による立哨活動。
- ・ 校長講話を実施し生徒感想へのコメント記入。その感想を各学年代表一名が全校集会で発表。

◇生徒の実態やアンケートの結果より

- ・ 教職員の生徒に対するかわりに肯定的な考えの生徒の割合は非常に高い。保護者においても数値が大きく上昇しており、家庭と学校の連携がより緊密に行えたと考える。
- ・ 校内におけるあいさつの向上に向け取り組んできた結果が少しずつ表れてきた。また、地域への思いが強い生徒たちであるため、地域に対するあいさつについては、例年高い数値が出ている。今年度は、アフターコロナで様々な制限が解除されたためか、さらに数値が上昇した。
- ・ 進路学習については、1学年次から生徒・保護者に対する情報発信に努め、見通しをもって取り組んでいけるよう努める必要がある。

【今後の方針や具体策について】

- ・ 計画的な教育相談だけでなく、生徒との日常的な対話を通して「思い」や「心配なこと」を積極的に聴き取り、ともに解決にあたっていける関係性を築きます。
- ・ スクールカウンセラーによる個別の面談やカウンセリングだけでなく、全校生や各クラスを対象としたスクールカウンセラーの講話を通しての未然防止を図っていきます。
- ・ 生徒の「困り感」を家庭と共有し、直接話し合っ即時対応をしていきます。年度初めの家庭訪問で保護者と担任がしっかり顔を合わせ、情報共有できる関係を築けるようにします。
- ・ 学校で学んだことが社会でどのように役に立つのかを実感できるよう、職場体験や企業訪問等の学校外での教育活動も重視し、キャリア教育の充実に努めていきます。また、その学びの過程を、保護者にも発信していく工夫をしていきます。
- ・ 進路指導の充実に向け、生徒・保護者対象の進路説明会を1年時から計画的に実施していくことを重視していきます。
- ・ さらにあいさつの活性化のための方策を生徒会中心で話し合い、あいさつが飛び交う学校で生活することのよさを実感できるようにします。さらに、自分たちの力でよりよい学校をつくり上げたという達成感を味わわせるよう、そのためのプロセスも大切に指導します。

問	質問内容	4	3	2	1	4と3の割合		
						R5	R4	増減
14	学校（学年・学級）は、家庭や地域に、学校の取り組みや生徒の活躍の様子について、たよりやマ・メール、ホームページ等によく伝えていると思う。	33	27	8	0	88	78	↗
		46	22	0	1	99	92	↗
15	親として、学級通信や学年通信、学校通信等をよく読んでいる方だと思う。	24	29	12	3	78	88	↘
		40	21	7	1	88	82	↗
16	学校の教育環境が整備され、子どもは生活しやすいと思う。	35	27	6	0	91	93	↘
		40	25	4	0	94	97	↘
17	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できている。	12	40	12	4	77	70	↗
		27	31	9	2	84	65	↗
18	お子さんは、スマホやインターネットを利用する時、家庭で決めた約束事（使用時間やフィルタリング等）を守り、適切に利用していると思う。	10	24	22	12	50	53	↘
		43	21	3	2	93	86	↗
19	学校行事等について、「アフターコロナ」の時代の中、学校は新しい形を工夫しながら実践できていると思う。	29	31	8	0	88	98	↘
		44	22	3	0	96	99	↘
20	学校は、家庭や地域、小学校等と連携し、活動していると思う。	29	32	7	0	90	85	↗

【今年度の取り組みや評価について】

◇今年度の取り組み

- ・ 月1回、学校だより「協育」の発行と学校ホームページ更新の日常化。
- ・ 各学年だより（適宜）、学級だより（毎週）の発行。
- ・ 必要に応じて連絡網「マメール」を活用し、学校の判断事項や協力依頼、生徒たちの活動の様子などを配信し、タイムリーな情報共有。
- ・ 「パワーアップ（生活習慣コントロール）」週間を、学習強化期間の年4回設定。
- ・ 縦割り班清掃の取組により、美化意識の向上。
- ・ 校医・学校歯科医・学校薬剤師の声を反映した学校保健委員会の実施。

◇生徒の実態やアンケート結果より

- ・ ホームページやマメールでの情報発信に力を入れたことで、昨年度よりも数値が上昇している。
- ・ スマートフォンやインターネットの利用について適切に利用していると回答した保護者はわずか半数に対し、生徒は9割以上との結果が出ている。保護者と生徒の捉えに大きなギャップがあることは大きな課題と捉える必要がある。
- ・ アフターコロナの中、様々な行事を開放し取り組んできたが、地域とのつながりについては課題が残る。教育環境、教育資源に恵まれた地域であることを念頭に、より活用できる取組が必要である。

【今後の方針や具体策について】

- ・ ホームページの更新を常時行い、常に生徒の様子を発信できるように努めていきます。
- ・ アフターコロナの時代、新しい形で生徒たちが地域に貢献していく活動を検討し、つながりを深めていきます（地域行事の実施可否により適切に対応）。
- ・ 生活習慣づくりは、メディアコントロールと密接な関係性があります。三中だけでなく、東郷小・高崎小との連携を大切にしていきます。「三中校区しこたん校友会」で共通の話題にして、指導と啓発を継続していきます。
- ・ メディアとの付き合い方について、警察等と連携し、必要な講話等を企画します。

- ◎ 2月20日(火)に実施いたしました学校評議員会において、以下のようなご意見も賜りました。

学校評議員会

日時：令和6年2月20日(火) 10:30~11:30

学校評議員

東郷地区区長協議会長	奥山梅太郎	氏
高崎地区区長協議会長	大江 邦男	氏
東郷公民館長	奥山 茂	氏
高崎公民館長	東海林雅彦	氏
高崎地区婦人会会長	清野 安子	氏
食生活改善推進員	遊佐久美子	氏
東根市立第三中学校 校長	竹内 齊	
教頭	大宮 裕一	

- ・ 東郷地区では運動会に代わるものとしてグランドゴルフに力を入れている。ぜひ中学校も大いに参加して盛り上げてほしい。
- ・ 「学校が楽しい」の数値が高いことは、先生方の努力の賜物。学校が楽しいことは、集中して授業に取り組むことや自分の考えを発表することなどと表裏一体である。本日の授業の様子を見てもよく分かった。継続して日々の指導に当たってほしい。
- ・ 部活動の数値も上がっているのは大変喜ばしい。
- ・ 授業の様子から、ICTの活用が進み、指導の方法が大きく変わっていることを改めて実感した。しかし、書くことも大切にする必要があるのではないか。
- ・ ICTの活用について、子どもたちには、間違った情報、怪しい情報を入手しない指導には十分指導をしてほしい。
- ・ 神町、東根学区では、子ども食堂が広がり、親子でそこにやってくる実態があるとのこと。本校にもそのような様子はあるのか。
- ・ 授業を見ていて、運動会で活躍された3年生の顔が思い出された。
- ・ 早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣が向上しており、生きる力を育てていると捉えている。
- ・ あいさつの向上に力を入れており、今後も将来に向けて役立つ指導を継続してほしい。また、家の前でも中学生が大きな声であいさつしてくれてとてもうれしい。他地区の中学生はあまりこのような光景が見られず、この地区のよさをいつまでもたいせつにしてほしい。